

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 28 日現在

機関番号：64302

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520939

研究課題名(和文) 北部ヴァヌアツにおける先史時代後期社会の考古学的研究：石組祭祀遺構を中心として

研究課題名(英文) Archaeological investigation of ceremonial stone structures and late prehistoric societies in northern Vanuatu

研究代表者

野嶋 洋子 (NOJIMA, YOKO)

国際日本文化研究センター・研究部・プロジェクト研究員

研究者番号：50586344

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：ヴァヌアツ北部各地の伝統的社会には、スプエと呼ばれる競争的な地位獲得システムが知られ、付随する様々な祭祀空間が遺跡として残るが、そのようなシステム成立のプロセスについては解明されていない。本研究では、バンクス諸島に見られる板石積み正面構造をもつ祭祀遺構の基礎的情報収集を行い、典型的な祭祀空間の構成を明らかにした。遺構の構築時期は新しく、その多くは西洋接触期以降まで使用されていたと考えられる。また祭祀遺跡の立地を検討し、それらが農耕生産を基盤とする内陸や農耕適地に構築されたこと、その一方で海岸部には貝貨生産や海産資源を基盤に異なる形態の祭祀遺跡が形成されていたことを指摘した。

研究成果の概要(英文)：Traditional societies in northern Vanuatu are known for the competitive leadership system of grade taking (suqe), and various ceremonial spaces associated with this practices are left on the landscape of the island. However, the process leading to the emergence of such systems is largely unknown. This project investigated ceremonial structures in the Banks Islands having distinctive brickwork facade, and basic structural and spatial characteristics of typical complexes were identified. These ceremonial complexes are of recent construction, most of which lasted into the post-contact era. These ceremonial complexes are mostly located inland or in areas suited for agricultural production; whereas different ceremonial structures are found along the coastal lowland, that are likely to have been associated with groups relying on marine resources and shell-money production.

研究分野：人文学B

科研費の分科・細目：考古学

キーワード：考古学 民族誌 社会複雑化 モニュメント ヴァヌアツ

1. 研究開始当初の背景

島嶼メラネシアにおける考古学的調査研究は、初期居住の証拠となるラピタ文化に偏重しており、その後の社会文化的変化、特に伝統的メラネシア社会形成へと繋がる諸変化についての実証的研究は限られている。また、ポリネシアにおいては先史首長制社会の成立が特徴的祭祀施設(マラエ)との関連で重要な考古学的課題として論じられる一方、メラネシア各地に存在する様々な石造構築物についての研究も数少ない現状である。

本研究の調査地とするバンクス諸島を含むヴァヌアツ北部地域一帯の伝統的社会には、豚撲殺儀礼を特徴とする競争的地位獲得のリーダーシップ、位階階梯制(スプエ)が知られるが、このようなシステムが成立するプロセスについても考古学的検証が課題となっている。主要な調査対象とする祭祀遺構群は、このシステムにおける高位獲得者(リーダー)と関わるものとして語り継がれているものである。その具体的様相の解明は、これまで専ら文化人類学的視点で扱われてきた課題に、別の角度から迫ることを可能にする。それは同時に、これまで空白であったヴァヌアツ北部における先史時代後期から西洋との接触期にかけての先史社会変化の様相解明に繋がるものといえる。

2. 研究の目的

本研究では、これまであまり研究の進展していない島嶼メラネシアにおける先史時代後期から終末期にかけての社会文化的変化の解明を視野に、ヴァヌアツ北部に位置するバンクス諸島を調査地とし、考古学的調査・研究手法および民族歴史学的手法により、当地域における具体的事例研究を提示することを目的とする。バンクス諸島に特徴的に残る石組祭祀遺構を具体的な調査研究対象とし、遺構の形態的特徴を整理することによりその具体的様相を明らかにし、年代測定によりその成立時期やタイムフレームを特定することを目指す。また同時に、農耕活動の集約化を示すタロイモ水田跡にも注目し、生業活動と祭祀空間形成との関連を探る。またメラネシア経済の特徴でもある海岸部-内陸部間の交易活動と社会変化との関わりについても追求する。

典型的な首長制の成立をみない島嶼メラネシア地域における先史時代の社会文化変化は、社会複雑化の多様なプロセスを考える上でも重要な事例となるだろう。

3. 研究の方法

本研究では、ヴァヌアツ北部地域のなかでも、顕著な石積み構造をもつ遺構が特徴的に見られ、かつ19C末-20C初頭に記録された民族誌的情報が存在するバンクス諸島を調査地として選定した。現地調査では、先史社会変化の指標とも成り得る祭祀施設の出現

と様相解明に主眼をおき、タロイモ灌漑農耕が発達しているヴァヌアラヴァ島(314km²)、その北東に位置するモタラヴァ島(24km²)の2島において、考古学的手法による遺跡分布調査・測量・試掘を実施するとともに、聞き取りによる情報収集を実施した。

プロジェクト初年度には遺跡確認のための分布調査を中心に実施し、次年度以降は複合的構造をもつ遺跡が確認されたヴァヌアラヴァ島南西部及び北東部、モタラヴァ島東部の3エリアに焦点を絞り、遺跡範囲全域のマッピングを実施し祭祀空間の構造を把握するとともに、一部遺跡においては試掘を実施し、年代測定可能なサンプル採取も行った。また本研究では祭祀施設構築の経済的基盤となりうる要素にも注目し、遺跡に近接する集約的農耕施設の有無や、交易品として重要な貝貨製作の痕跡についても可能な限り情報収集を行い、これらの要素が、祭祀遺跡構築にみる先史時代後期-末期の社会変化に如何に作用しているかも考察の対象とした。

4. 研究成果

(1) バンクス諸島祭祀遺跡の様相

本研究の主要調査対象としたバンクス諸島石組祭祀遺構は、玄武岩の板石を精巧な小口積みにした正面構造をもつ方型マウンドあるいはテラス状の遺構で、典型的に階段状に配した突出部を備える(階段付き板石積み遺構)。このような特徴的遺構の多くは従来単体あるいは若干の遺構を伴うものとしては知られていたが、遺跡の全容は、本課題による現地調査によって初めて明らかとなった。以下、祭祀遺跡の具体的様相を整理する。

祭祀空間の構造：上記のような階段付き板石積み遺構を伴う遺跡は、いずれも共通した遺構配置パターンを持つ(図1)。階段付き板石積み遺構は、バンクス諸島祭祀遺跡の中核をなす儀礼施設である。隣接して幅5-6m、長さは30-40mにも及ぶロングハウス跡があり、その内部は幾つもの部屋に仕切られている。この建物跡はスプエに不可欠な要素である男子集会所(ガマル)にあたる。これらの遺構の正面には、ダンスグラウンドと想定される広場があり、この空間を取り囲むように、その他の建物跡が配置されている。広場を挟んだ反対側には、正面側中核遺構のような精巧な構造をもつことはないが、比較的大型の建物跡が位置する事例もある。本研究では、このような構造をもつ遺跡を複合的祭祀遺跡として整理した。更に、モタラヴァ島東部で精査した3遺跡では、いずれも遺跡付近を石罫が走っており、エリアの境界、あるいはかつての土地区画であったと考えられる。

時期：複合的祭祀遺跡には、斧や銃身などの鉄製品や金具、陶器、ガラス片など西洋の遺物を伴うものが多く、19C半ば以降の西

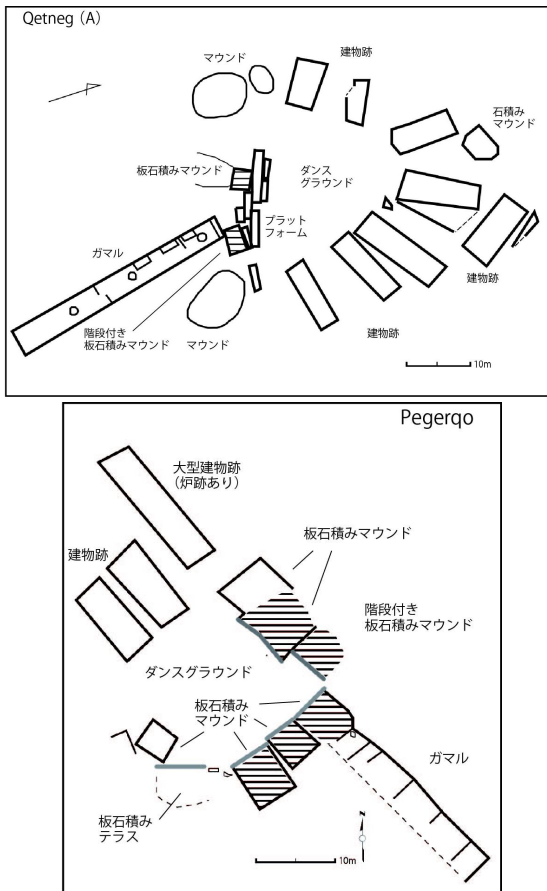


図 1 バンクス諸島における複合的祭祀遺跡の遺構配置事例

洋接触期に入るまで使用されていたことは明らかである。一方、その形成がいつ頃までに溯るのかについての見通しを得るべく、試掘で得られた木炭の年代測定を行ったが、詳細な時期の特定は出来ず、過去 300 年を溯る可能性がないことのみ確認した。

祭祀遺跡形態と立地：プロジェクトで踏査した 32 遺跡（モタラヴァ 15 遺跡、ヴァヌアラヴァ 17 遺跡）の立地と遺構形態について検討した結果、先述したような板石積み構造をもつ遺構を伴う複合的祭祀遺跡は、ヴァヌアラヴァでは標高 80m 以上の内陸部に特徴的に存在することが解った。特に同島南西部においては、タロイモ灌漑農耕エリアに隣接して祭祀遺跡があることから、両者に相関があることが推測される。一方、海岸低地部の遺跡では板石積み構造を伴う遺構は稀で、立石や大型石材による石列等を持つ遺跡が主体となる。

モタラヴァ島では、内陸部-海岸部という対比は、島の中央から東部（台地や丘陵）と西部（海岸低地）という地域差としても顕れる。ここでは板石積み構造をもつ遺構を備えた祭祀遺跡は東部に限定され、西部においては、ガマル遺構は存在するものの、石積みマウンドのような遺構を伴う遺跡は皆無である。

両島における遺跡分布傾向から、板石積み

構造を伴う祭祀施設は農耕活動（豚飼育を伴う）を背景として形成され、海岸低地部は異なる経済基盤（恐らくはスフェ・システムにおいて豚と並ぶ価値をもつ貝貨の生産）を拠としていたと考えられる。

(2) ヴァヌアラヴァ南西部の灌漑農耕システム

ヴァヌアラヴァ南西部は、現在、バンクス諸島で唯一、タロイモの灌漑農耕が実践されている地域である。しかし放棄された灌漑農耕用のテラス跡は同島の北西部や東部など随所に見られ、かつてはヴァヌアラヴァのほぼ全域においてタロイモ灌漑農耕が行われていたことがうかがえる。更には、現在では焼畑農耕と樹木栽培に依存しているモタラヴァ島においても、その中央北部にはタロイモ灌漑テラス跡があり、タロイモに高い価値があったことが推測される。

本研究では、祭祀遺跡の確認調査に併行して、農耕集約化と遺跡形成の相関を考察する目的で、ヴァヌアラヴァ南西部の灌漑テラス跡のマッピングと試掘を実施した。試掘した 2 エリア（アオット、テントゥル）はともに、複合的祭祀遺跡を伴うテラス跡で、アオットは特に灌漑農耕の始まりの土地として伝承で語り継がれ、現在に至るまで使用されている地域最大の農耕活動エリアである。両エリアとも同じ河川流域に形成されており、テントゥルはその最も上流、灌漑水路の水源付近に位置する。

テントゥルの灌漑テラス内の土壌堆積が 40cm 程度に過ぎないのに対し、アオットでは 50-70cm であり、後者においてより長期間の利用が想定される。アオットのテストピット最下層では炭化物集積地点を検出しており、243-338AD の年代値を得ている。この年代は、このエリアが開墾され、ヴァヌアラヴァ南西部における内陸開発が進行した時期として評価できるが、灌漑システムの成立を示すテラス形成時期の解明については、今後調査を積み重ねる必要がある。

(3) 先史社会の変遷と祭祀遺構の出現

最近の環境史データによると、太平洋南西部においては、約 2000 年前以降湿潤化が進み、約 750 年前以降に乾燥化し現在のような植生が出来上がったとされる。多湿な環境はタロイモの栽培適地を拡大した可能性が高く、河川流域での内陸への進出を促したと考えられる。ヴァヌアラヴァ南西部で検証された内陸部への拡大は、このような時期に対応する。

バンクス諸島では 1970 年代末の考古学的調査で、農耕生産の出来ない小島における専門的貝製品製作集団の出現や豚の交易が約 1000 年前にまで溯ることが判っているが、これはその一方で内陸地域における安定した農耕基盤が成立していたことを示唆する。

バンクス諸島における内陸部-海岸部の関

係性は、祭祀遺跡における立地と遺構形態の
関係に呼応するが、祭祀遺跡の形成自体は過
去数百年の域を出るものではない。特徴的な
祭祀空間形成の契機を特定するには、更なる
調査研究の積み重ねが必要であり、課題とし
て残るが、本プロジェクトで蓄積した祭祀遺
跡のデータは、そのための重要な基礎となる
だろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌論文](計4件)

丸山清志・野嶋洋子・竹川大介・桑原牧
子・山田仁史・小西潤子、海洋文化館ゾ
ーン3 リニューアルについて、日本オセ
アニア学会 News letter、査読無、108 巻、
2014 年、1 - 23 頁

野嶋洋子、特輯『太平洋島嶼地域の考古
学 - 人類居住史と社会変化の諸相 - 』に
寄せて、古代文化、査読無、64(4)、2013、
61 - 62 頁

野嶋洋子、北部ヴァヌアツ・バンクス諸
島の祭祀遺構群、古代文化、査読有、64(4)、
2013 年、111 - 121 頁

野嶋洋子、オセアニアにおける生業戦略
と先史社会変化 - 島嶼メラネシアの場合、
第4紀研究、査読有、51(4)、2012 年、
257 - 265 頁

[学会発表](計4件)

野嶋洋子、バンクス諸島の石造構造物調
査：現状と今後の計画、環太平洋の環境
文明史第4回国際研究者全体集会、2012
年6月2日～2012年6月3日、札幌大学
(札幌市)

Yoko Nojima、Technological Styles of
Cooking and Feast Food: the case of
Nothern Vanuatu、Feast and Famine:
Exploring Relationships with Food in
the Pacific、2012年9月7日～2012年
9月8日、Institute of Archaeology,
Collage London (London, UK)

野嶋洋子、バンクス諸島祭祀遺構群の現
状と課題 - 遺跡調査・保護と人々の意識
について、日本オセアニア学会第30回研
究大会、2012年3月23日～2013年3月
24日、日光総合会館(日光市)

野嶋洋子、部族社会のモニュメント：ヴ
ァヌアツ北部における予備調査と今後の
展望、環太平洋の刊行文明史第3回国際
研究者全体集会、2011年5月22日、沖
縄県立博物館・美術館(那覇市)

[図書](計3件)

青山和夫・米延仁志・坂井正人・高宮広
土(編) 岩波出版、首長なき社会のモニ

ュメント『文明の盛衰と環境変動：マヤ・
アステカ・ナスカ・琉球』、2014年、320
頁

高宮広土・新里貴之(編) 六一書房、バ
ンクス諸島の「山」と「海」- メラネシ
ア・ヴァヌアツにおける先史社会と環境
- 「琉球列島先史・原史時代の環境と文
化の変遷」、2014年、304頁

Yoko Nojima、Springer Press、Water
Civilization: from Yangtze to Khmer
Civilizations(Chapter 5 Non-ceramic
grave goods of Phum Snay in the context
of sociopolitical development in
northwest Cambodia)、2013、pp.161 - 180

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野嶋 洋子 (NOJIMA Yoko)

国際日本文化研究センター・研究部・プロ
ジェクト研究員

研究者番号：50586344